

## 神経内科での実習を終えて

宍戸理紗

神経内科での実習で、5年生の時とは違って4週間という期間の中で症例の病状の変化や治療の効果がどのように出て、それについて症例が満足しているかどうかをじっくり観察することができました。症例の症状が軽くなったり、薬剤を減らすことによって重くなったりするのを感じることができたこと、また、覚醒下手術中に症例の動きが改善することを見学することがとてもよかったです。

症例だけでなく他の患者の神経学的所見をとることができたこともためになりました。神経内科領域の疾患は感染症から変性疾患、自己免疫性疾患など様々なものがあり、神経学的所見も患者によってまったくことなり、同じ疾患でさえも所見には差があるところがとても面白かったです。疾患の特徴を身体的診察や詳細な問診である程度見抜くことができるところが神経内科の特徴であると感じました。鑑別疾患を考え、診断の確定のためにどの検査を選択するかについても勉強することができました。神経学的所見のとり方や、検査についての講義もあり、具体的なイメージや検査結果から見える病体についても学ぶことができました。

太田熱海病院での実習で、大学病院とは違い慢性疾患の患者や、高齢者が大半を占める病院での医師の役割について考えることができました。訪問診療にも同行することができて、とても楽しかったです。

この4週間を通して、先生方はとても親切に所見のとり方を教えてくださったり症例や疾患について説明して下さってとても勉強しやすい環境でした。先生方が診断や治療法について議論されているところもとても刺激になりました。神経内科領域の疾患はまだまだ解明されていない点が多く、これからも発展していく分野だと感じました。4週間という短い期間ではありましたが、充実した実習になりました。本当にありがとうございました。

## 神経内科 感想

高野栄亮

私が1か月間の実習を通して学んだことの一つは神経疾患における問診と診察の重要性です。神経内科で扱う疾患は非常に多彩な症状が現れるため診断が非常に難しいと思っていましたが、ほとんどの神経疾患は問診と診察で診断することが可能であると教えていただいたことはとても印象に残っています。実際に神経内科の先生方は時間をかけて問診と診察を行っていて神経疾患における問診・診察の重要性を実感することができました。自分でも病棟の患者さんや外来の初診の診察をさせていただく機会が数多くあり、自分で試行錯誤しながら診察を行うことで前に比べると丁寧に診察ができるようになったと感じています。問診や診察は医療における基礎的なところではありますがおろそかになりがちな部分でもあると思うので今後どの科にいても問診と診察は大切にしていきたいです。

また私はこれまで神経疾患は治りにくいというイメージを持っていましたが治療やリハ

ビリを行うことで脳梗塞や脳炎の患者さんの身体機能が日々改善していく過程を見ることができました。さらにこれまで難病といわれていた疾患も新たな治療法がでてきて予後が大幅に改善したということを先生にお聞きしてこれまでの神経疾患に対するイメージが変わった1か月間でもありました。

神経内科は非常に奥深い分野であり1か月で学ぶことができたのはほんの一部であると思いますが今回学んだことを基礎に今後も様々な疾患に向き合っていきたいと思いました。

最後になりますがこのように充実した実習を行うことができたのは神経内科の先生方の親切、丁寧なご指導のおかげです。貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。

#### 神経内科での実習を終えて

吉本 有希

わたしが神経内科をアドバンスで選択したのは、脳神経の分野が一番苦手意識が強く、1ヶ月の実習でじっくり勉強する時間を作りたかったからです。脳神経分野を学問として楽しい、興味深いと思えるようになることが目標でした。

この1ヶ月間はとても充実していて本当にあっという間でした。なるべく早く患者さんの把握に努め、疑問点を沢山調べる努力をわたしなりにしたつもりですが、それ以上に神経内科の先生方が丁寧にご指導くださり、どんな質問にも答えていただいたことで、毎日勉強になる事ばかりでした。5年生の時に1週間回った時は、慣れる前に終わってしまったというのが正直なところで、疑問点を多く残したまま終えてしまったように思います。今回は、6年生4人で1ヶ月間、1人の患者さんをじっくり診させてもらい、神経だけでなく全身を診る時間もありました。担当患者さんには診察や問診にご協力いただき、大変感謝しております。担当以外の患者さんも、毎日回診していると、少しずつ良くなっていく様子や、逆に急変してしまうケースなど、刻々と変化する容態を目の当たりにし、医師としての喜びや冷静な対応の重要性も感じました。

臨床に加えて研究にも力を入れている先生も多く、抄読会やカンファレンスでの活発な議論も大変興味深かったです。脳神経分野は、未だ分からないことがあり、また患者さんの全身を診るという点で一生勉強しがいのある面白い分野だと思いました。これからも貪欲に勉学に努めていきたいとおもいます。1ヶ月間ありがとうございました。

#### 神経内科実習を終えて

渡部 聡

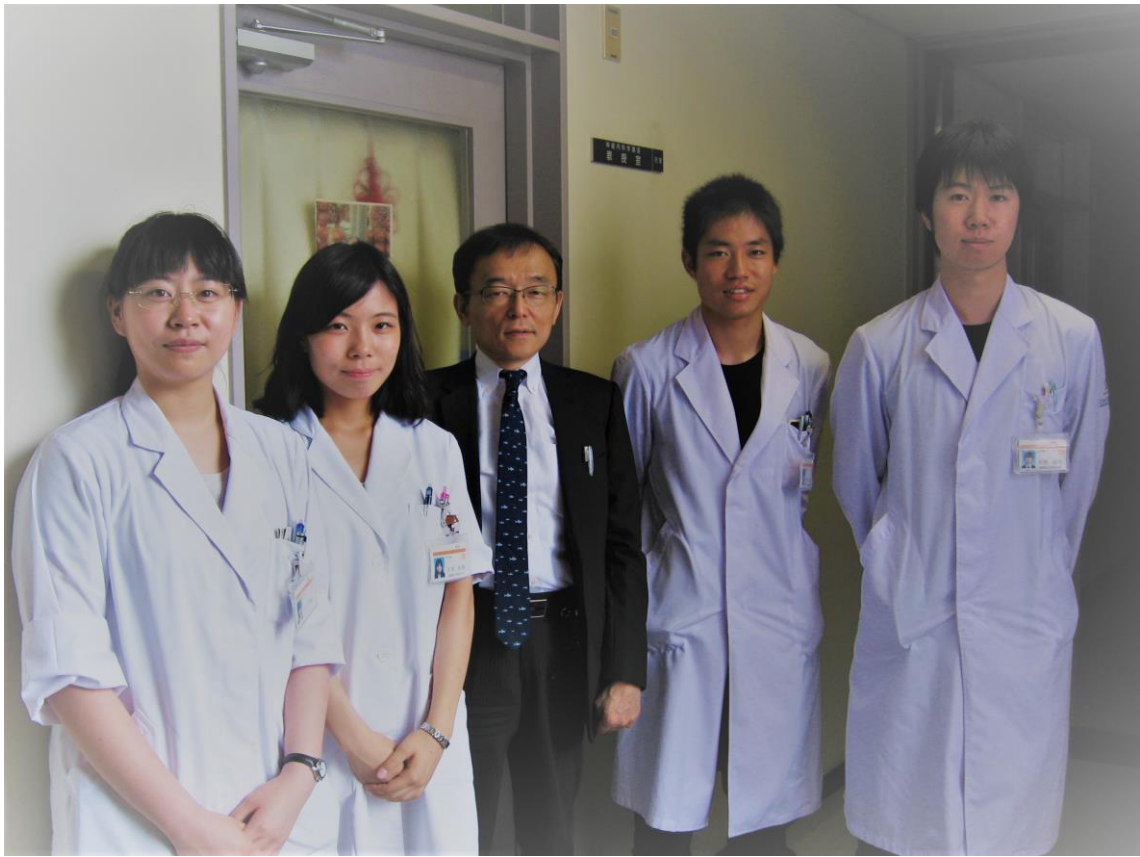
「神経内科は、暗い・治らない・難しい」。そうじゃないんだ、ということを知ったのは今回の4週間の実習の最初に宇川教授にお話していただきました。このことに関して、4週間の実習を終えてみて自分が感じたことについて述べたいと思います。

まず「暗い」というイメージについて。これに関してはもともとあまり自分の中にそのようなイメージが無く、腑に落ちないところではありました。では実際はどうだったのか……。少なくとも福島医大の神経内科では全くそのようなことはありませんでした。まず、宇川教授がとても明るく、周囲の人とよくコミュニケーションをとられている方であり、また他の先生方も、患者さんのこと・神経内科のことになると熱くなる方が多く、カンファの時などに何度か白熱したディベートを見させていただきました。安田先生をはじめとして学生に指導を下さった先生方も、みなさん優しく熱心に教えて下さり、勉強になっただけでなく、とても楽しく実習をすることが出来ました。(飲み会の雰囲気も好きでした。)

続いて、「治らない」というイメージについて。確かに、今回の実習でも、Creutzfeldt-jakob病のように、治療法なく数か月の間で進行性に病状が悪化していったり、パーキンソン病のようにまだまだ完治することのできない病気の患者さんは何人もいらっしゃいました。個人的には、治らない病気に興味があるので、むしろ必要な、忘れてはいけないイメージではあると思います。一方で、脳梗塞や脳炎のように、初めは意識すら危うかった患者さんが少しずつできることが増えていく様子もみることができ、治っていく患者さんを見る喜びも感じることができました。どちらの病気においても別々な意味で「治しがいのある」分野なのではなのではないかと感じました。

そして「難しい」というイメージについて。これは正直、今回の実習でより実感することになりました。氷山の一角という言葉がありますが、本当にその通りで、学生のうちに勉強してきたことは、臨床に出してしまえば本当に氷山の一角にすぎず、神経内科は奥が全く見通せないほど深い分野であると実感させられました。だからこそ患者さんの話をよく聞き、所見を正確にとることが重要であると感じました。「神経内科は単純だ。」という話も宇川教授からいただきましたが、自分はまだまだその領域には踏み込めていないので、いつかその領域に足を踏み入れられるよう、しっかり勉強していきたいと思います。

4週間という、振り返ればあっという間の短い時間でしたが、明るく熱心な先生方のおかげで、いろいろなことを学ばせていただきました。本当にお忙しい中、ありがとうございました。また機会がありましたらよろしく願います。



実習を終えて宇川先生を囲んでの1枚